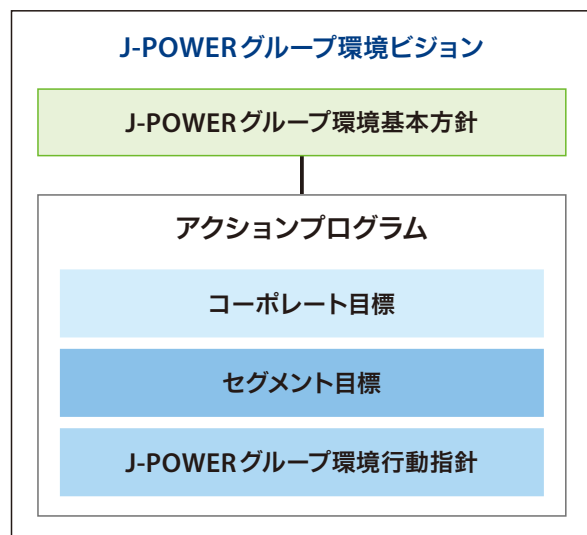


# J-POWERグループと環境

J-POWERグループは、エネルギー供給に携わる企業として環境との調和を図りながら、日本と世界の持続可能な発展に貢献しています。

J-POWERグループでは、サステナビリティ基本方針の制定やマテリアリティを特定したことを踏まえ、下図のように目標体系を見直し、これからも環境保全に努めてまいります。

目標体系の見直しでは、「J-POWERグループ環境基本方針」を維持しつつ、これまで総称として使用していた「J-POWERグループ環境ビジョン」および「アクションプログラム」の呼称を取りやめ、より理解しやすいシンプルな体系とし、「コーポレート目標」を「J-POWERグループ環境目標」、「セグメント目標」を「J-POWERグループ部門別環境目標」に名称変更しています。



2022年度に  
目標体系を  
見直し

詳しくはJ-POWERホームページをご覧ください。

<https://www.jpowers.com/sustainability/environment/>

## J-POWERグループ環境基本方針

### 気候変動問題への取り組み

不断のエネルギー提供と持続可能な社会の実現に向けて、これまで培ってきた経験と技術をもとにカーボンニュートラルの実現に取り組みます。

### 地域環境問題への取り組み

事業活動に伴う環境への影響を少なくするよう対策を講じるとともに、省資源と資源の再生・再利用に努め廃棄物の発生を抑制し地域環境との共生を目指します。

### 透明性・信頼性への取り組み

あらゆる事業活動において法令等の遵守を徹底し、幅広い環境情報の公開に努めるとともにステークホルダーとのコミュニケーションの充実を図ります。

## J-POWERグループ 環境目標

中期的取り組み課題に対して目標を定め、グループ全体で取り組むもの

気候変動問題への取り組み	CO <sub>2</sub> フリー電源の開発加速化 温室効果ガス (GHG) 排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度までに1,500MW以上開発</li> <li>安全を大前提とした大間原子力計画の推進</li> <li>2025年度までに国内発電事業からのCO<sub>2</sub>排出量▲700万t*</li> <li>2030年度までに国内発電事業からのCO<sub>2</sub>排出量▲1,900万t (▲40%)*</li> <li>*2017-2019年度3年平均実績比</li> <li>2030年度までに省エネ火力発電ベンチマークの達成</li> </ul>
地域環境問題への取り組み	循環型社会形成の推進 生物多様性の保全 水環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の有効利用率 97%程度</li> <li>廃プラスチックの排出抑制と再資源化等の推進</li> <li>事業活動における生物多様性の保全への配慮</li> <li>事業活動における河川および海域環境の保全への配慮</li> </ul>
透明性・信頼性への取り組み	環境マネジメントレベルの向上 環境法令・協定などの遵守徹底 環境コミュニケーション活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>EMSの継続的改善</li> <li>環境法令・協定などの重大な違反件数ゼロ</li> <li>地域社会や社内での環境コミュニケーション活動の推進</li> </ul>

## J-POWERグループ 環境行動指針\*

J-POWERグループが取り組むべき課題、および、各課題に対する主な取り組み細目

## J-POWERグループ 部門別環境目標

J-POWERグループ各部門がJ-POWERグループ環境目標および環境行動指針を考慮し、自ら設定し取り組むもの

\* J-POWERグループ環境行動指針の詳細は、「J-POWERグループ統合報告書2022補足資料<E:環境編>」をご覧ください。

## J-POWERグループと環境

### J-POWERグループ環境ビジョン コーポレート目標・実績①

\* コーポレート目標は、2022年度以降「J-POWERグループ環境目標」となります。

コーポレート目標のうち、2021年度単年の目標はすべての項目において達成しました。

気候変動問題への取り組みの中期目標については、継続的に推進しています。

#### ■ 気候変動問題への取り組み

目標	2021年度の主な実績	目標達成						
<b>CO<sub>2</sub>フリー電源の開発加速化</b>								
2025年度までに1,500MW以上開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>水力発電については、手取川ダムから放流している未利用の河川維持流量を活用したおなばら発電所を建設することとしました。また、新桂沢水力発電所計画の建設工事および足寄発電所1号機のリパリングを推進しました。 * 2022年4月熊追発電所(出力: +200kW)、2022年5月新桂沢発電所(出力: +1,800kW) 運転開始</li> <li>陸上風力発電については、上ノ国第二、南愛媛第二、江差風力発電所の建設工事、石狩八の沢地点の建設準備を推進しています。また、苫前、島牧、さらきとまない、仁賀保高原風力発電所のリブレース工事を推進しています。</li> <li>洋上風力については北九州響灘における建設準備を進めています。また、檜山、あわら、西海、遊佐沖地点で開発に向けた調査を進めています。</li> <li>海外では、英国トライトン・ノール洋上風力発電所(持分出力: 21.4万kW)が2022年1月に風車試験を完了し、4月より商業運転を開始しています。また本事業を通して洋上風力発電所建設に関する知見を蓄積しました。</li> <li>国内地熱発電の新規地点開発として、2019年8月には安比地熱発電所の建設工事に着手し建設工事を推進しています。さらに、宮城県大崎市高日向山地域において将来の地熱発電所開発を目指し2019年7月から2021年に小口径調査井掘削調査を実施しました。2022年6月より大口径調査井掘削調査を開始しました。なお、鬼首地熱発電所については2017年4月に既設設備を廃止し、2019年4月に設備更新のリブレース工事に着手し建設工事を推進しています。</li> <li>太陽光発電として、2021年11月に福岡県北九州市(約3万kW)および兵庫県姫路市(約2千kW)において国内におけるJ-POWER初の取り組みである太陽光発電プロジェクトを落札しました。前者は2024年、後者は2023年の営業運転開始を目指しています。海外では米国での大規模太陽光発電の新規開発に向けて事業パートナーとの間で共同開発契約を締結したほか、タイ国においてルーフトップソーラー事業を開始しました。</li> </ul>	推進中						
安全を大前提とした大間原子力計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>大間原子力計画は安全強化対策などの検討を進め、新規制基準への適合性について審査対応を行いました。</li> <li>あわせて地域の皆様のご理解や信頼を得るための取り組みを実施しました。</li> </ul>	推進中						
<b>CO<sub>2</sub>排出量削減</b>								
2030年度までに2017～2019年度3カ年平均実績比40%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>フリー水素発電の第一歩であるGENESIS 松島は、2021年9月に環境アセスメント手続きを開始しました。</li> <li>老朽化火力のフェードアウト、バイオマス導入拡大およびアンモニア混焼実用化の検討に取り組んでいます。</li> </ul>	推進中						
2030年度までに省エネ法火力発電ベンチマークの達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度ベンチマーク達成に向け、既設火力発電所における高効率運転の維持およびバイオマス導入拡大・アンモニア混焼実用化の検討に取り組んでいます。</li> </ul> <p>2021年度実績</p> <table border="0"> <tr> <td>A指標: 0.94</td> <td>(0.99)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B指標: 38.7%</td> <td>(40.7%)</td> <td>* ( )内は、省エネ法の熱量換算係数を実績燃料発熱係数に換えて算定した参考値</td> </tr> </table>	A指標: 0.94	(0.99)		B指標: 38.7%	(40.7%)	* ( )内は、省エネ法の熱量換算係数を実績燃料発熱係数に換えて算定した参考値	推進中
A指標: 0.94	(0.99)							
B指標: 38.7%	(40.7%)	* ( )内は、省エネ法の熱量換算係数を実績燃料発熱係数に換えて算定した参考値						
<b>六フッ化硫黄(SF<sub>6</sub>)の排出抑制</b>								
点検時: 97%以上、撤去時: 99%以上	<p>確実に回収・再利用することで機器点検における排出抑制を図った結果、機器点検時99.6%、機器撤去時99.2%となり目標を達成しました。</p>	○						

## J-POWERグループと環境

### ■ J-POWERグループ環境ビジョン コーポレート目標・実績 ②

\* コーポレート目標は、2022年度以降「J-POWERグループ環境目標」となります。

#### ■ 地域環境問題への取り組み

目標	2021年度の主な実績	目標達成
<b>発電電力量あたりのSOx排出量の抑制</b> (火力発電所の発電端電力量あたり)		
現状程度に維持する[0.2g/kWh程度]	0.21g/kWh 燃料管理および排煙脱硫装置の適正運転などにより硫酸化物の排出量を抑制した結果、発電電力量あたりの排出量は目標を達成しました。	○
<b>発電電力量あたりのNOx排出量の抑制</b> (火力発電所の発電端電力量あたり)		
現状程度に維持する[0.5g/kWh程度]	0.46g/kWh 燃料管理・燃焼管理および排煙脱硝装置の適正運転などにより窒素酸化物の排出量を抑制した結果、発電電力量あたりの排出量は目標を達成しました。	○
<b>産業廃棄物の有効利用率の向上</b>		
現状程度に維持する[97%程度]	97.7% 石炭灰の有効利用促進と発電所の保守・運転等に伴って発生する産業廃棄物の削減に取り組み、目標を達成しました。	○
<b>水環境の保全</b>		
事業活動における河川および海域環境の保全への配慮	河川に係る発電設備の運用にあたり、各地点の状況に応じた堆砂処理対策や濁水長期化軽減対策などの河川環境保全の対応を着実に実践しました。海域に隣接する発電設備の運用にあたり、環境保全協定などに従い海域への排出水の管理を的確に実践しました。	○
<b>生物多様性の保全</b>		
事業活動における生物多様性の保全への配慮	事業活動における生態系や種の多様性の保全に配慮し、希少動植物の生息/生育地の保全および社員の生物多様性に対する意識向上に取り組みました。	○

#### ■ 透明性・信頼性への取り組み

目標	2021年度の主な実績	目標達成
<b>環境マネジメントレベルの向上</b>		
環境マネジメントシステムの継続的改善	確実にPDCAを実践し、環境マネジメントレベルの向上に取り組みました。	○